令和５年度第３回米原市健康づくり推進協議会　要点録

日時：令和６年３月27日（水）19:00～20:40

会場：米原市役所本庁舎　３Ｃ会議室

【出席者】

（一社）湖北医師会	中村 泰之
滋賀大学教育学部	久保 加織
（一社）湖北歯科医師会	伊藤 宗寛
米原市商工会	北川 敬子
（福）市社会福祉協議会	伏谷 勇恭
市健康推進員会	堀田 美岐子
市女性の会	野一色 順子
市老人クラブ連合会	宮野 節兒
校長会代表	廣瀬 雅一
JAレーク伊吹農協職員	渡邊　優華
市スポーツ推進委員協議会代表	中野 民子
給食センター	岸 陽子
公募	堀江 里美
公募	三輪 恵美

【欠席者】

湖北健康福祉事務所（長浜保健所）	嶋村 清志
保育園・幼稚園代表	四方　由美子
いぶきスポーツクラブ	西脇 栄子

【事務局】

くらし支援部長	松岡
健康づくり課長	安田
健康づくり課長補佐	細溝
健康づくり課主査	中澤

【傍聴者】

長浜保健所

【要点録】

１．開会

・ 委員の出席者数の確認（14名/17名　出席）

規則第5条第2項により、過半数の出席があるため会議として成立

２．議題

（１）健康まいばらんす計画に基づく令和６年度重点項目の具体的な取組について

事務局 資料説明

会長　新たにウェブサイトの予約も始められたとのことですが、利用状況はいかがですか？

事務局 ３月26日現在の状況では、48人の申込を受け付けています。性別では、男性10人、女性38人。年代別では、20代６人、30代11人、40代７人、50代６人、60代16人、70代２人。60代の方が最も多い状況です。

会長　若い年代から受診することが大切かと思いますが、どのような働きかけが有効だと思われますか？

委員　仕事が忙しくて受診が難しいという声も聞いています。日赤の献血をよくするんですが、献血は案内が来たり、登録するとグッズがもらえたりとかあるので、そういうところで何か入りやすいきっかけがあれば。また、身近なところで受診できることは大切かと思います。

委員　市は健康診断の受診率が中々上がらないことを課題としていますが、商工会では関心が高く受診率が上がらないというのは理解しにくいです。今年も既に受診についての問い合わせがあり、比較的健康に対する意識が強い方が多いと思います。オンライン申込については商工会の方でも聞かれていて、来年以降それも検討予定です。市では年配の方のオンライン申込もあるという話でしたが、割と御年配の方が多く、FAXや紙ベースの方の申込が多いのでその点は相反するかなと思っています。

会長　LINEによる介護予防情報発信の中で健診の情報も発信されているとのことです。せっかくの取組ですので広がればいいなと思いますが、現場の感覚としていかがですか？

委員　LINEについては結構高齢者でもやってます。あとは申込をどういう風にやればいいか、どういう風にPRするかっていうことかと思います。

会長　歯科健診に関して御意見ありますか？

委員　計画の目標で、３歳児でう蝕のない割合87.5%というのは、分母はどういう風にされているのかというのをお伺いしたいと思います。それと、歯科医師会では、歯と口腔に関して誕生日月に米原市と長浜市では健診を行っておりますので、もう少し広報をよろしくお願いします。

会長　事務局いかがでしょうか？

事務局　３歳半で乳幼児健診をしているので、健診を受けた方が分母で、その中で虫歯のなかった人が分子です。健診のときに券を直接お渡しして、保護者の方も受診できるということをお伝えするようにはしていますが、あまり受けられていないのでしょうか。把握ができていない状況です。

会長　なるほど。これは渡された券がもう一回、市には返ってこない？

事務局　市には返ってきません。

委員　どれだけ歯科医師会が健診をしているかの数は把握しますが、それが減少傾向にあります。人口の減少か、子どもの減少によるものかっていうのが全くわかってない。虫歯の平均何本というのは、全体的に確かに下がってきているが、県の平均から言うとやはり高い位置に米原市、長浜市はある。湖北の米原市、長浜市だけが学校・幼稚園でのフッ化物洗口がされてないので、対策を具体的にしていけると良いのではないかと思います。

事務局　今ちょうどフッ化物洗口のお話がありました。フッ化物洗口については協議を始めているところでして、また具体的なことが決まっていきましたら、先生方にも、またこの協議会でもお話させていただく機会ができればなと思っております。

会長　歯科医師会が、数だけはわかっているのですが、事業がうまいこといっているか評価をしていく方が次の対策がとれるのではないかと思います。

委員　事務処理はすごく大変だと思います。事業を数値化するというのは、虫歯について歯科医師会が把握しているかというと、人数は把握できていません。虫歯の数をもし把握しようとすると、全部集約し、紙ベースのものをデータ化することになるので難しいのかなと思います。

事務局　この計画の評価や県内で、３歳児の虫歯の平均を比較するのは乳幼児健診のデータでないと比較ができないのかなと思っています。虫歯の数を強い歯を作ろう運動で把握するかどうかは、すぐ何ともお答えができないのですが、受診数は把握が可能かと思います。ただ、分母が生まれ月のどこでどう切るかっていうのでも変わってくるかと思いますので、整理が必要です。

会長　この分母っていうのは健診に来た人の数じゃなくて、３歳児の全部の数ですか？

事務局　健診に来た人です。

会長　そこにも、ずれが出てくるんじゃないかと思うんですね。受診する人は熱心な人が多い。

事務局　３歳半健診は約90%の方は来られています。来ないとお手紙出すっていうのがあるので割と受診率は高く実施させていただいております。

会長　次に２の子どもの頃からの健康づくりについて事務局から説明お願いします。

事務局　（資料説明）

会長　このプレコンセプションケアというのを大学でされていることはありますか。

委員　妊娠中にちゃんとした食生活をしてないと、生まれてきてから40代ぐらいになった頃に生活習慣病になりやすいというのが、だいぶ前に言われ始めた。そういったことは学生には言うようにしています。プレコンセプションケアのひとつなのかなと思いながら、こうやって何か力を入れていただけるとありがたいんですが、本人へなかなか響かないっていうのが難しい問題で、あともうひとつ保健っていうと脅しの保健になるのが悩みどころです。

会長　持っていき方が難しいですね。何か学校の方でありますか。

委員　大変良いリーフレットを作っていただいてぜひうちの学校でも授業していただければと思います。先ほど言われたようにうちも小学生なので、知識としてはそういう機会があると入るんですけど、なかなか実感っていうのはわいてこないのではないかと思います。いずれ大人になり自分が生活していくときに、知識が役に立つときは出てくるかなと思いますので、そういった機会を設けていただくのは大変ありがたいなと思っています。

会長　このまいばらんすその２で書いてある３色、低学年でも喜んで意識していたんで、こういうリーフレットで楽しく学べていけばありがたいなと思います。リーフレットも含めて、学校だけじゃなく何か広げていけるようなことができればとは思うんですが、何か御意見ありましたら。

委員　このリーフレットすごくいいなと私も思って見させていただきました。冊子の17ページ、朝食を毎日食べないって結構いらっしゃるなと思いました。私は野菜を作り始めたら、できたら嬉しいのでそういう風に何かやってみて面

白いっていうことがわかったら、子供たちもできるんじゃないかなと思います。興味関心をいかに育てていけるかっていうのは理論で言っても駄目なので、米原市で長期休み等に実践する場や教室をするといったきっかけで何か変わると思います。人間は生きていくことが大事なので、たくましく育っていくような子を米原市として支援できるような体制が取れたらいいなというふうに思っています。

会長　貴重な御意見ありがとうございます。いろんな家庭が増えていまして、この子によって家庭がもっているぐらいの家も出てきている状況です。その子たちを周りからどう支援できるか、逆に言えば、この生活を一変して全部を変えてもらうということは現状難しい状況の中でどうするかっていうのは、非常に皆さんの育んでいく力が大事だと思うし、ありがたい言葉ありがとうございます。こういう取り組みを広げていくように何か意見等ありましたら、よろしくお願いします。

委員　体型のことですね、小学校４年、５年生ぐらいから痩せ願望を友達と喋っています。もちろん本来は家庭で指導していくことですが、家庭では指導しきれないほどのたくさんの外部情報を入れていて、私達の子供時代と全然違うなって思っています。この冊子を子どもに見せたのですが、中学生がおしゃれやな、小学生は意外と難しいって言っていました。学校ではよく早寝早起き朝ご飯、これ国民運動なんですね。同じようなことが書いてあるでとか、喋ってたんですが、こういう形でいろんなところからお話していただければ非常にありがたいなと思うし、うちの子どもの学校でも出前講座ぜひ来ていただけたらなと思っています。もし連携が取れるのであれば、そういったときに資料をつけてもらって、プレコンセプションケアのお話も繋げていただけると、またその話をうけて家庭でも話していけるし、親自身もなかなかこういう教育は私達のときはなかったので一緒に勉強する形で親子講演会みたいな形でもいいのかなと思っていました。

会長　ありがとうございます。いろんな取組が出てきたと思います。

委員　まず今までの皆さんの御意見を伺って、思った点がひとつ、お伺いしたいことがひとつあります。先ほど、子供たちがたくましく生きていけるようにしていくっていう御意見があったと思うんですけども、私の地元では例えば家庭科の授業や特別活動の実習の時間に、こういう健康テーマに自立意識を醸成していくような、授業・活動を盛り込んでいました。あとは、知識として

頭の中に定着していても実行できるか別というのが現状だと思うので、出前授業で、子どもたちが自分で行動して自分の言葉で振り返るという作業をやってみてもらうと、切磋琢磨して健康意識を高めたりすることができるのかなというふうに感じました。事務局の皆さんにお伺いしたいことがあって、プレコンセプションケアですね。今、性教育の方は教育機関で力を入れて御指導されてるのかなと思うんですけども、例えば生理不順を放置していると不妊のリスクが高まるというのを初めて知ってびっくりしました。そういう分野の教育が充実していなかったと思われる20代30代、それ以上の方々にはどのような取組をしているのか教えていただけたらと思っています。

事務局　私達もこの考え方は現在学習中でして、今の20代、30代の方にこのことを何か伝えてるかっていうとできてないような現状です。ネットで調べれば何でも出てくるので、心配な方は相談されているんですけども、いろんな選択肢やいろんな考え方がある中では、なかなかストレートに言いにくいところもあって、健康っていうのを前面に出して考えていただくことが基本になってるのかなというふうに、今の段階では理解しています。県では、教育委員会との連携について検討されています。まずは、こういう考え方がありますということを紹介させていただきました。何ができるのかっていうのは、この場で今、いろんな御意見もいただきましたし、皆さんで考えていけたらなというふうに思っています。なので、皆さんの機関でも先ほどの料理の体験、給食センターさんで再開されているのかはわからないですけども、そういう中で親子で学べる機会もあるのかなとか、皆さんと協力しながらいろんな形で市民の皆さんに提供できるといいのかなと考えております。

会長　コロナでできなくなった時期があったと思いますが、現状はどうでしょうか？

委員　コロナ前は親子料理教室を実施してましたが、コロナ禍で中断しておりまして、まだ復活できてない状態です。学校でも徐々に家庭科の調理実習は行っているんですけど、市内の方に応募してっていうのが今は止まっている状況です。コロナ前は子育てサークルの方が給食センターの見学に来られた時に、子どもが食べ物に興味を持てるような絵本でお話するといいですよというお話もしてました。今は学校の授業や食育指導でしかやってないんですけど、まいばらんすその２の３色揃えて栄養バランスということを伝えたり、また運動会前に朝ご飯食べてきた方がしっかりダンスも覚えられるし、力い

っぱい運動もできるよっていう指導をしたりとか、行事に関連させて、朝ご飯食べた方がいいよという指導を行っている感じです。積み重ねが大切かなと思っています。

委員　このパンフレットうまくできていて、緑は、野菜類ですね。今、新聞とかテレビを見ると、サプリメントと配食弁当というのが課題になってくると思うんですよ。これからの高齢者は手っ取り早く食事しようと思ったら、配食弁当をとると。そうすると、緑が出てこないなと思います。ぜひ緑を取るように野菜を作ってみんなで分け合うとか、そういう取組ができるといいかなと思います。

委員　では次に３食環境整備（減塩対策等）について事務局から説明をお願いします。

事務局（資料説明）

会長　コロナの感染拡大中はこういう活動はできない状態でしたが、これから行っていけるんじゃないかなと思います。健康推進員さんの米原おいしく減塩プロジェクト、市民の方々の反応はいかがだったでしょうか。

委員　健康づくり課の指導のもとに、スーパーや健診会場でお野菜食べたい事業というのをやらせてもらっています。なかなか足を止めていただきにくい状態ですが、足を止めてくださる方は、私血圧が高いので参考になったというお話もしていただいています。その場で先ほど、ここに出していただきました減塩の調味料を紹介すると喜んで見ていっておられます。腎臓の悪い方はお医者さんの方に相談っていうふうにそれも指導のもと、させてもらっております。

会長　ぜひとも活動を続けていただきたいなと思います。見本の視覚にぱっと見える教材はすごく大事。他のところでも、アルコール度数で缶を置いて１日の量を示したり、角砂糖を並べたりすると、この缶こんなに入ってるのっていう驚きがあったりするので、こういう視覚的なものはちょっと目にとめるだけですごくありがたいなと思っています。

委員　減塩だけじゃなくて、お砂糖の教材も作ってあって、色んなペットボトルの飲料にどれだけのお砂糖が入ってるのかをスティック砂糖で示していただくので、子供たちの事業をやっているときには、それを持っていって、こんなにいっぱい入ってるのよっていうような感じで。やっぱり視覚っていうのは大事だと思います。

委員　米原市民の１日当たり食塩摂取量が４ｇオーバーとあったんですけど、学生のときに教科書で、長野県が塩分オーバーになりがちで、そこから減塩プロジェクトを始め、健康寿命を延ばしたっていう事例を聞いたことはあるんですけど、米原の場合、土地柄、要因があるんでしょうか？

会長　米原市を４つ分けたらって昔やりましたよね、４つに分けて多いのは近江地区で確か調べて、ある程度合併して初期に１回出してくれはって。それぞれ地区によっても違うんですよね。

委員　伊吹はお漬物多いですしね、近江町も多かった気がします。

会長　近江町が多いのが不思議やったんですよ。伊吹町より。

委員　塩分のことが問題になって、滋賀県で一斉にお味噌汁の塩分調査をしようという形で始まって、野菜を350gとりましょうとか、健康推進員会の中で取り組んだのは覚えてますね。塩分すごい大事で、血圧も同じ大事なことです。昔は地域の中へ健康推進員が入っていて、塩分の話等をしたんですけど、コロナ禍でできない状況が続いていたので、ぜひこれからも続けられたらいいかなと思います。

委員　先ほどのリーフレット「止まるな青春」も学校で配っていただくのも必要ですし、中身を見ていると、スポーツをするのに栄養も必要だし朝食も食べた方がいいので、スポーツクラブとかスポーツ少年団の先生方から配っていただいて、指導していただくと、先生のいうことは、かなり聞くので、大事じゃないかなと思います。さっき塩分の話で、高齢の私の母は、ご飯の後に必ずお漬物がないといられないぐらい、もうご飯がなくなってても必ずお漬物は食べるので、やっぱしそれで塩分取り過ぎになって血圧も上がるんじゃないかなと思いますし、こういう目に訴えるものを学校や庁舎の入口とかに置いていただけたらと思います。

委員　このお店の啓発が火曜日水曜日の平日ばっかりなんですが、例えば土日にしてくれたら、平日と対象はちょっと違うかもしれないですけど、いいなと思いました。

事務局　今年度は祝日の月曜日に10時から13時という短時間ですが行かせていただきました。どうしても買い物に来られて急いで帰られて、なかなか足を止めてもらうのが難しかったので、来年度は平日のゆっくりお話を聞いてもらえる時間帯に一回してみようかということで考えています。

会長　こういうふうに作ってくださった視覚教材も教室開かなくても、健診等の事業のときに貼っとくだけでも、かなりインパクトがあるかなと思います。

委員　リーフレットを各庁舎、支所にブースみたいなものをおいて、来られた方はちょっと興味を持ったら、手に取って持って帰るとかそういうのもあるといいなと思っています。伊吹山テレビでもどんどんこういうのを発信した方が、いいなと思って見せてもらいました。

会長　それでは次に４の自殺対策について事務局から説明よろしくお願いします。

事務局　（資料説明）

会長　難しいテーマです。壮年男性の自殺が多いというのがあるんですが、私の実感的には、中学校の方がすごく問題が大きくなってきてるんです。

委員　思春期ですので、いろいろと個別に悩みを抱えてる子はたくさんいます。それが自死に繋がるかどうかっていうのは、個別のことなんで何ともいえないですけど、文科省の方からは、ここ数年毎回、長期休み明けに自殺予防等の取組や、教育相談を強化して把握に努めるようにという通知が必ずきます。具体的には、悩み相談室みたいなことを開催して気楽に相談できるような場所を作っているんです。学校としては例えば道徳で、命は大切という教育をしています。自殺予防教育っていうのは具体的にもっと何をしたらいいのかっていうのは、学校現場での悩みでもある。今、学校への講師派遣っていう話も出てきましたが、本当にすごくデリケートな問題なんで、その辺はどういった内容や、指導者で子どもたちに話をしていくといいのかなっていうのを学校とも十分打ち合わせしていただけると、ありがたいなというふうに思います。

事務局　私、説明が不足しておりまして、まずは教職員の方にっていう意味で話をさせていただきました。今お願いしている講師の先生は、実際に中学校とか高校のお子さんにもそういう話をしたことがあるとのことですけども、同じような御意見の先生方も多いと思いますので、まずは市役所として、その子どもにどう関わってどう気づいて声をかけるか、もちろん学習されているとは思いますが、まずは先生方にと思っております。

会長　でも先生方もかなり大変な状況ですよね。はい、お願いします。

委員　啓発カードの件ですけれども、市役所の女性トイレのところに置いてあってすごいな、手に取りやすいのなって思ったのが１点と、もう１点は話それるかもしれないんですけど、私も実は元教員で、今中学生の娘がおります。そ

ういう中で子どもたちにずっと自立っていうことを話してきたんですけれども、それは自分１人で生きていくんじゃなくて、困ったときにSOSを出せる力だよっていうのをずっと言ってきました。我慢して自分で頑張らなあかんって子どもたちに言いがちやったんですけど、時代が違うなと思って。今年はSC（スクールカウンセラー）の先生が上の子のときには直接自殺とかではないですけれども、心がしんどくなるときはっていうお話をしてくださっている、それがオンラインで保護者も見えるようになってたんです。そういうような取組も現場で一生懸命してくださっているので、子どもたちに直接ではないけどもそういう形で専門の方に話してもらうっていうのも、もちろん内容について協議はしていただきたいんですけれども、これからの子どもたちには必要ではないかなと思ってるので、またぜひよろしくお願いします。

会長　自殺の教育ってすごい難しいテーマ、こないだ僕も中学校の校長先生と話していたのは、テレビでやってるように、学校の先生をメインに、授業の中で、成功例ではなしに自分の人生の失敗例を教育の中に公表できる方は出すっていう方法で取り組むのはできないんだろうかという話をしました。結構話す方も勇気がいるんですけど、話すことによって、自分自身を見直せて経験できるし、聞く方は、ここまでやってる人が、実はむちゃくちゃ失敗してたっていうのを知る方が大事かなという、憧れてる先生の失敗体験とか言うと、失敗しても大丈夫なんだというのは大事かなと。大きくなった後、成人した後の、カウンセリングしてても、すごく順当に行くことがメインじゃなしに、失敗することの体験談の方を出してきて何かやっていく方がいいのかなという気もしています。その他いかがでしょうか？JAではメンタルヘルスについて取り組んでいることはありますか。

委員　メンタルヘルスまではわからないんですけど、思い当たるのは二つあって、一つ目がストレスチェック調査を全員実施しています。また、職員の自殺の原因は勤務の原因っていうのが一番多いということがあるので、コンプライアンス研修は定期的にされていて、全員出席しているっていう感じですね。思いあたるのはその取り組みかなと思います。

会長　自治会の役員でも思い悩むという相談があったり、地域のつきあいがかなり大変でっていうことも周りでもあったりするんでしょうか。

委員　過去には自治会の役員したからということで、自殺された方はいます。そういうのももちろんありますし、最近は役員やるのがいややっていうことで、

なり手が少なくなってきてて、自治体でやる老クの組織がなくなっていく。そういうふうな現状が今問題になってますね。そういうのがやっぱりいろんなストレスとかに繋がっていってるのかなって思いますね。

会長　地域もあまり注目浴びてないんですけど、やはり多い気がしてきているなというのがあるんで、なんかその辺も今後何らかの取組がしていければなと思っています。

委員　高齢者の居場所作りが大事だと思います。居場所を持たずに家に閉じこもってるとそのことで問題が起きてくる。いろんなところへ行って交流ができるっていうのが大事かなとおもいます。

会長　農業をずっとしてこられて足腰が悪いからやめときって言われて、本当にやめたらもうすることなくて自殺されたというケースも直面してる。そういうことも起こっているので、若い人と働いている人っていう以外の感覚も持ってないとゼロにはほど遠くなってしまうんで、そこもまたいろいろ御意見いただければと思います。いかがでしょうか？

委員　過去に副区長さんをされて、自殺をされた方はやっぱりいます。区の重大な責任を感じられたんだと思うんですけど、なかなかデリケートな問題なので。私も老人会の副会長で会計をさせていただいて、老人会どうするかっていう存続問題で、結局、総会を開いて、アンケートをとったら老人クラブがなくなってしまう。その代わりに見守り隊という組織がありますので、かろうじて高齢者の居場所をそちらで保っておりますので、なんとか高齢者が閉じこもらないように見守り隊の活動がずっと続けられたらと思っております。本当に自殺と関係あるかどうかわからないんですけど、居場所がある、誰かとしゃべれる、そういう場所があるというのは、これからもますます大事になってくるんじゃないかなと思います。ぜひ、ゲートキーパー、そういう方がたくさん地域の中で対策をして広げていければなあと思っています。

委員　この自殺対策の市民対象のゲートキーパー養成講座、それで思ったことがあって、例えば企業さんに出向かれる場合、もしかしたら行き先の任意にはなってしまうかもしれないんですけど、例えばうちでいうと教育人事課といって人事の担当、新人の教育係になった人や、管理的な立場の方にこの養成講座の声掛けをされると、何か自分事として取り組みたいと思う社員、職員従業員さんが多いのではないかなと、思いました。

委員　今まで高齢者の孤立が大きな問題だったと思うんですけど、コロナもあって、子どもさんも孤立してますし、僕ら、働き盛り世代のひきこもりの方も増えていると、本当にもう各世代を見ても繋がりっていうのはいろんな意味で薄くなっているのかなと思います。先ほどあったように自治会でも、役になって自殺されたりとか、順番で役が回ってきてどうしても逃げられなくてっていうことで、その自治会を離れる方もいらっしゃったりとか、その方は逃げられたのでよかったのかもしれないんですけれども、それも相談できない。聞いてみるとですね、パソコンができないから自治会長はできないとか、喋るのが苦手だからやりたくない、でもそれって実はパソコンはするよとか、喋るのを代理でするから、事務をやってねとか、それで実は解決するようなことも、相談できなかったりとかそれで思い詰められてやっぱり自死、そういうことが最近はあるんじゃないかなと思うので、そういった話せる場っていうのは高齢者だけじゃなくてそういういろんなところにあることが大事なんだなと思っています。計画をどうしていくかっていうことはすごく大事だと思うんですけど、今日来られている皆さんが、例えば何かその取組をしようとしてみると、実際、今年、社協と市で開催した地域フェスタで、お味噌汁の試飲をしてくださったんですけど、それ飲んだときに減塩ですね

委員　そうですね、0.8%のお味噌汁を作ってきたんですけど、皆さんにこれは自分のところで作ってるお味噌汁と、濃いですか薄いですかっていうのでパネルでやってもらうんですけど

委員　そういう取組をしていただいたら、もっと薄いと思ってたけど、こんな味があるんやとか、そんな味噌入れんでいいんやとか、出汁をちゃんとしたらおいしくなるんやなということをちょっと勉強させてもらったりとかして、地域の方がいろんなことで協力することで、この計画は進んでいくんだなと思って。資料もすごくわかりやすいですし、大事なことがいっぱい書いてあるんですけど、これをどう広げていくのかっていうのが皆さんと何か一個できることで、活動計画がまた本当に実際になったり、野菜摂取や減塩の推進ができるんじゃないかなと思うので。今後こういうことができるような、部会とは言いませんけど、なんかそういうチャレンジできたらすごくいいなと思ってましたので、またぜひいろいろ地域の話とか、いろんな話をして、何か進めていけるといいなと思いました。

会長　まとめていただいて私は本当にありがたいです。皆さん、いろんな意見を聞かせていただいてありがとうございます。計画が完成しましていよいよ実践ということで、来年度から取組を進めていければと思いますので、また御協力の方よろしくお願いします。それでは事務局の方からよろしくお願いします。

事務局　最後に２点だけすみません。市が実施する健診について、ポスターやチラシを作成しましたので委員の皆様に配布させていただきます。ぜひ、可能な範囲で掲示や配布に御協力いただけると嬉しく思います。青い方が生活習慣病健診で緑の方ががん検診になっていまして、青い方を見ていただくと、中央下に申し込みフォームっていうQRコードを載せさせていただいています。こちらを読み込んでいただくと、申し込みフォームに入れるということになりますし、先ほど言いました健診ガイドの方には７ページのところに、同じくQRコードを載せさせていただいてます。またもう１点健康推進員さんが作られたチラシの方も一緒に置かせていただいています。とても素敵なリーフレットとパンフレットを作っていただいていますのでぜひ合わせて、お願いします。ありがとうございます。

委員　各自治会でも、これを皆さんのところへ持っていて、配られてますよねっていうので、啓発を行っております。どうか皆様、広報の方よろしくお願いいたします。

会長　では本日予定しておりました議事については全て終了させていただきます。皆さん熱心に御協議いただきましてどうもありがとうございます。